

文化財ガイドマップ 弥富市の文化財



弥富市教育委員会

指定文化財

番号	名称	所在地	指定種別	指定年月日	索引
1	服部家住宅	荷之上町石仏419	重文 建造物	S49.2.5	A2
2	銅造阿弥陀如来坐像	鳥ヶ地二丁目3	県 彫刻	S44.6.23	D5
3	柴ヶ森	荷之上町柴ヶ森4172	市 史跡	S51.12.10	A2
4	興善寺地蔵	荷之上町古堤385	市 彫刻	S51.12.10	A3
5	薬師寺の大楠	鯛浦町上六49	市 天然記念物	S51.12.10	B2
6	鯛浦城跡	鯛浦町上六49	市 史跡	S51.12.10	B2
7	李忠園・擔風先生筆塚	鯛浦町下本田32	市 史跡	S59.5.27	B2
8	竹長押茶屋	前ヶ須野方719	市 建造物	S51.12.10	C2
9	おみよし松	平島町西新田	市 天然記念物	S51.12.10	C3
10	立田輪中人造堰樋門	中山町懸廻	市 史跡	S53.10.10	D2
11	木造阿弥陀如来半跏像	子宝六丁目秋葉堂	市 彫刻	H4.9.25	D6
12	二つお宮の松	東郷一丁目54	市 天然記念物	H12.12.6	D6
13	鳥の池	神戸二丁目21、22	市 史跡	H5.11.25	D6
14	孝女曾與宅址	鳥ヶ地一丁目235-1	市 史跡	H2.1.31	D5
15	宮崎筠園邸址	鳥ヶ地一丁目176	市 史跡	H2.1.31	D5
16	森津の藤	森津十四丁目607	市 天然記念物	S51.12.10	D3
17	六体地蔵	稲元六丁目42	市 彫刻	S51.12.10	F6
18	八穂地蔵	鎮田町稲山	市 彫刻	H5.2.19	H5



文化財愛護シンボルマーク



文化財を守るう

文化財に関するお問い合わせ先

弥富市歴史民俗資料館

愛知県弥富市前ヶ須野方731
TEL・FAX 0567-65-4355 〒498-0017
時間/9:00~16:30
休館日/月・火曜日、祝日の翌日、年末年始

1 重要文化財 建造物 服部家住宅



服部家の初代正友は、織田信長との戦乱の後、荷之上に居を構え、村を再興した。代々近郷の総屋をつとめた旧家で、苗字帯刀を許されていた。現在残っている主屋は、天正年間(1573年頃)に建てられたものと伝えられ、400年以上たっている。県内でも有数の古い民家で、主屋のほか表門、離れ座敷、文庫蔵などが国の重要文化財に指定されている。

2 県指定文化財 彫刻 銅造阿弥陀如来坐像



この仏像は、龍華山弥勒寺の本尊で、背面の刻銘に、明応9(1500)年藤原宗次の作とある。宗次は梵鐘や野口の鋳工として知られ、仏像の専門でない鋳工が作った貴重な仏像である。
弥勒寺は、仏像と同じ明応9年の創立で、もともと現在の七宝町伊福にあったが、戦国時代の戦禍により寺は失われ、仏像だけが伝えられていた。寺は元禄4(1691)年に鳥ヶ地新田に再興され、同12年現在地に移された。

3 市指定文化財 史跡 柴ヶ森



柴ヶ森は、平治元(1159)年の平治の乱に敗れた源義朝らが、知多の野間(現弥富市)に逃げる途中に立ち寄ったことによる。舟に積んだ柴の下に隠れてこの地まで来た一行が、もう安心だと舟を川岸に上げたことから「二之江村」が「荷之上村」に改められ、川辺に積み上げた柴が芽を出し森になったことから柴ヶ森と呼ばれるようになった。記念碑には旧佐屋町(愛西市)出身の元内閣総理大臣加藤高明の題字「柴ヶ森」が刻まれている。

4 市指定文化財 彫刻 興善寺地蔵



興善寺は、現在の東名阪高インターあたりにあった寺で、創建は延暦14(795)年、桓武天皇の勅願によると伝えられている。文明年間(1470年頃)に天台宗から一向宗に改宗し、本願寺派の大寺となった。織田信長との戦いで焼失し、再興されたが、その後大地震で倒壊し清洲へ移転した。明治24年の濃尾地震後に、この寺の跡地の白頭池から地蔵二体が見つかり、興善寺の地蔵として荷之上の墓地に安置されている。

5 市指定文化財 天然記念物 薬師寺の大楠



大楠は樹齢600年以上といわれる古木で、かつてはこの付近が海浜だったことから、磯辺の楠として有名であった。人々はこの楠の葉を用いて病を治療したといわれ、また、一説には豊臣秀吉が舟をつないだとも伝えられている。樹下には、古来鎮守の杜(下の宮)が祀られ参拝者が後を絶たなかったというが、明治時代に弥富神社に合祀された。
鯛浦城は、このあたりに勢力のあった服部左京亮の率いる服部党に対抗するため、織田氏が築いた城である。元亀元(1570)年、服部党が鯛浦城主織田信興(信長の弟)を小木江城(旧立田村)に攻め殺したことを機に、信長は攻勢を強め、三度目の天正2(1574)年には大軍を送り込んでことごとく焼き尽くしたという。城跡には、信興が護持していた薬師像を納めるお堂が建てられ、これが現在の薬師寺の由来とされている。城跡の記念碑は昭和51年に建てられた。



6 市指定文化財 史跡 鯛浦城跡



孝忠園は、漢詩人として全国的に知られた服部擔風の古希(70歳)を記念して、昭和11年門人らによって建てられた。この碑には、常に誠実、真心を説き、子は親に孝行、臣は君に忠実であることが私の師である旨の漢詩が刻まれている。筆塚は、擔風の三周忌にあたる昭和41年に門人らにより詩碑の隣に建てられた。碑面の文字は、生前親交の厚かった永平寺熊沢泰禪の書である。また、園内には昭和14年に門人らにより建てられた種徳碑もある。

8 市指定文化財 建造物 竹長押茶屋



この建物は、もともと名古屋城北御深井丸にあった尾張藩御用の離れ休息茶室で、その一部を明治5年に前ヶ須の佐藤家が、当時の筏川の船着場に移築したものである。各部屋に竹の半割の長押を使用していることからこの名がある。明治時代には、たびたび天皇・皇后の東海道の休息所となった。

9 市指定文化財 天然記念物 おみよし松



この松は、正保3(1646)年の平島新田開拓時に植えられたと伝えられ、名の由来は、筏川の岸に津島神社の天王祭の御車馬(兼で福んだ小舟)が流れ着いたのを記念して植樹し、名付けたものと考えられている。この兄弟松が平島地内にあったが、今は枯れて昔話に聞いただけとなった。現在の樹高は約21m、幹周りは5.25mに及んでいる。

10 市指定文化財 史跡 立田輪中人造堰樋門



明治時代に輪中の排水に苦慮した立田輪中普通水利組合は、木曾三川改修工事の行われた明治35年にこの樋門を完成させた。しかし、排水の効果は十分に得られず、結局、筏川を使って排水することになった。その後は用水の確保に利用されたが、海部幹線水路の完成により遊休樋門となった。立田輪中の好意により旧弥富町が権利を受け継ぎ、水利史の遺跡として輪中公園の中に保存されている。

11 市指定文化財 彫刻 木造阿弥陀如来半跏像



この仏像は子宝の観音院に伝わるもので、立像または坐像の多い仏像の中で、このような半跏像は全国的にも珍しいものである。高さ57cm、桧材の奇木造りで、仏像の胎内から「南無阿弥陀仏奉納 延宝二(1674)年十一月三日 右願主 曾谷三右衛門」と記された文書が見ついているが、製作はもっと古いものと思われる。台座は、後に修復されているが、波を表した部分は水害に対する安全の願いが込められていると伝えられている。

12 市指定文化財 天然記念物 二つお宮の松



正保4(1647)年以降、東郷を含む十四山地区の北部の村々が新田開発され、安全平穏と五穀豊穡を祈願し、各村々には神社が勧請された。昭和34年の伊勢湾台風で壊滅的な被害を受けた当地域では、多くの樹木が枯死したが、東郷の山神社にあったこの老松は奇跡的に生き残った。山神社は承応3(1654)年の勧請と伝えられ、この松もその頃の植樹と考えられている。
現在、樹高は約16m、根回り約3.1m、目通りの幹周り約1.9mに及び、「二つお宮の松」として多くの住民に親しまれている。

13 市指定文化財 史跡 鳥の池



海の中に堤防を築き新田を開発してきたこの地域では、大潮や地震で堤防が切れ洪水になることが多く、堤防の切れた跡に、溜と呼ばれる池が各所に残されていた。しかし、現在はほとんどが埋め立てられ、この「鳥の池」が唯一の溜の跡となった。「神戸家文書」に宝暦7(1757)年の大水でこの場所に溜ができたという記録がある。また、この池には八咫龍王の伝説が残っている。

14 市指定文化財 史跡 孝女曾與宅址



享保13(1728)年鳥ヶ地に生まれた曾與は、幼い時に母親と別れ父親に苦勞して育てられたため、父親のありがたさを思い一生懸命働いた。酒を飲み生活の寂しさを忘れようとした父親を、曾與は哀れに思い孝養をつくしたという。この話が鳥ヶ地に住む西河菊莊により『孝女曾與伝』として安永7(1778)年に出版された。曾與は寛政12(1800)年に71歳で亡くなったが、その後も善行は称えられ、明治から大正時代にかけての修身の教科書に載り、全国にこの話が広まった。弥勒寺には今も曾與の墓が残っている。

15 市指定文化財 史跡 宮崎筠園邸址



宮崎筠園は、江戸時代の中頃に活躍した旧十四山村出身の漢学者・文化人で、享保2(1717)年に鳥ヶ地に生まれた。幼い頃から聡明で10歳で漢詩を作ったと伝えられ、この頃に父とともに名古屋に移り学問に励んだ。17歳の時に京都に移って儒学者の伊藤東崖に学び、その傍で書画を修めた。特に竹を描くことに優れ、浅井園南らとともに「平安四竹」と称えられた。
この碑は、大正2年に建てられ、現在は十四山中学校のグラウンドの片隅にある。また弥勒寺には、文化11年に建てられた、宮崎家のいわれを記した碑が残されている。

16 市指定文化財 天然記念物 森津の藤



森津の藤は、正保4(1647)年の森津新田開拓時に植えられたと伝えられている。尾張名所図会に「棚の広さ縦横二十五間四面、およそ棚の高さ二間ばかりにして、花の長さ四、五尺より一間程にも及び」と紹介され、花が満開になると昼間でも空が見えず、紫の雲に覆われたようだと記されている。遠足の小学生や、庭が鯛川に面していたことから潮干狩りの舟も立ち寄り、地面にすれるほどの花を楽しんだという。老木となって樹勢に衰えが見られるが、今でも花の時期には大勢の人が訪れる。

17 市指定文化財 彫刻 六体地蔵



この六体地蔵は、稲元の墓地に安置されている。稲元は元禄8(1695)年に開拓された新田で、二体目の地蔵の背面に宝永2(1705)年の刻字があることから、開拓の犠牲者を供養したものと考えられる。この新田は知多郡大野村(現常滑市)で綿屋を営んでいた平野六兵衛秀勝が開拓したことから大野綿屋新田とも呼ばれていた。

18 市指定文化財 彫刻 八穂地蔵



現在の鯛田千拓の一部にあたる八穂新田は、江戸時代末に開発されたが、度重なる水害や安政元(1854)年の大地震により、ついに海に沈んだまま放置されることになった。それから約20年後の明治8年、富島の漁師が地蔵を引き上げ、八穂新田の地蔵として約90年間富島に安置していたが、伊勢湾台風後の復旧工事を完了するまで近い昭和38年、鯛田千拓の現在の場所に安置された。

